

大学での英語教育におけるクリティカル・シンキング力を育成するための研究

Developing critical thinking skills in English education at university level

服部 孝彦¹

¹大妻女子大学英語教育研究所

Takahiko Hattori¹

¹The Institute for Research in English Education, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：クリティカル・シンキング，大学英語教育

Key words : Critical thinking, English education at university level

抄録

本研究の目的は次の3つである。第1に、これまでのクリティカル・シンキングの様々な定義に関して考察をすることにより、クリティカル・シンキングという考え方の共通点を見いだす。第2に、1980年代初頭から大学でクリティカル・シンキング教育が展開されているアメリカの事例を検討し、今後日本の大学で行われるべきクリティカル・シンキング教育についての考察をする。第3に、日本の先取りをしたアメリカのクリティカル・シンキング教育から日本の大学英語教育におけるクリティカル・シンキングの可能性と課題を明らかにし、その課題を解決するためのアプローチを考察することである。

1. 問題

クリティカルに考える力は現代社会に生きる人間にとって必須である。現代社会には様々な情報があふれており、これを生き抜くためにはクリティカル・シンキング力は不可欠といえる（楠見，道田 2016，樋口直宏，2014）。日本の大学でもカリキュラムにおいてクリティカル・シンキング力の養成が強調されるようになり、十分なクリティカル・シンキング力を大学在学中に身につけた上で卒業できるように要請されるようになりつつある。知識偏重ではなく、疑問をもつて考え抜くクリティカル・シンキングの力は、大学教育における各専攻分野を通じて培われる学士力の中でも重要な位置を示す。クリティカル・シンキングは大学生の主体的学びに必要なアカデミック・スキルであると同時に社会人としても応用可能なジェネリック・スキルとしても重要であるといえる（楠見 2014，楠見，道田 2015）。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つである。

- (1) クリティカル・シンキングの様々な定義に関する考察をする。
- (2) アメリカの大学で先行しているクリティカル・シンキング教育を検討し、今後日本の大学で

行われるべきクリティカル・シンキング教育についての考察をする。

- (3) アメリカのクリティカル・シンキング教育から日本の大学英語教育におけるクリティカル・シンキング教育の可能性と課題を明らかにし、その課題を解決するためのアプローチを考察する。

3. クリティカル・シンキングの定義

クリティカル・シンキングの定義は、研究者によって様々である（Atkinson 1997, Benesch 1993, Brookfield, 2012, McPeck 1990, Siegel 1997）。クリティカル・シンキングという用語は学問分野によって異なる意味合いを持つ。哲学においては論理的思考力に力点が置かれ、心理学においては論理的思考力をも含めた、批判的に考える力と批判的にふるまう態度の両方の意味で用いられることが多い（道田 2001，久保田 2010）。

クリティカル・シンキングの代表的な定義としては、哲学の視点から Ennis (1985) の「何を信じ、何を行うかの決定に焦点を当てた、合理的で省察的な思考」、Beyer (1985) の「情報や主張の信憑性や正確さ、価値を決定する過程」、Siegel (1986) の「理由に焦点を当てることであり、信念や主張や行動の正しさを保証する理由の力」、心理学の視点

から Wade (1997) の「しっかりとした裏づけのある根拠にもとづいて主張を評価し、判断を下す能力と意志」、Smith (1995) の「先入観を排し、証拠を集め、仮説を慎重に考慮、評価して結論に達しようとする論理的かつ合理的なプロセス」、Halpern (1996) の「望ましい結果を得る可能性を増大させるために、認知的な技術や方略を用いること」、Levy (1997) の「能動的で体系的な認知的方略で、正しい推論と妥当な証拠に基づいて、出来事の評価、理解し、問題を解決し、意思決定をするために使われる」をあげることができる。

4. アメリカの大学におけるクリティカル・シンキング教育

クリティカル・シンキング力育成教育の必要性について、アメリカでは1960年代から大学教育を支えるスキルとして注目され始めた。そして1980年代から哲学教育における初等論理学の授業でクリティカル・シンキングを教える大学が増えてきた。その内容は、形式論理学や非形式論理学を学ぶことによって身につけることができる論理的思考力の習得であった。アメリカ哲学会は1980年に「高等教育における哲学プログラムの役割」にて、哲学の中で特に論理学が学生のクリティカル・シンキング力を育成することができると述べている。

現在アメリカの大学では、論理学の授業や問題解決型の授業だけでなく、あらゆる学問分野の授業においてクリティカル・シンキング力を育成するための授業が展開されている。学生がクリティカルに考えられるように促し、クリティカル・シンキング力が身につくような課題や授業内活動を行うことを促進する環境が整っているといえる。

5. 大学英語教育におけるクリティカル・シンキング教育

日本の大学では従来、大学英語教育はリベラル・アーツ教育の枠組みの中での教育が主流であり、英語の授業では「話せる、聞ける、読める、書ける」という4つのスキルの習得を目指すものであった。しかしグローバル化が急速に進んでいる現代では、英語の授業で語学スキルと同時に思考スキルの習得、すなわちクリティカル・シンキング力も育成する必要がある。クリティカル・シンキングを大学の英語の授業に取り入れることによって英語の習得のみならず、知識の統合、考察力、グローバルな視点で考える力を育成することができる。

近年、大学では基礎学力が低い学生が多く入学

するようになってきた。英語の基礎学習からやり直す必要がある学生が増えている。英単語や英文法の学習段階で落ちこぼれてしまった学生でも、国際社会に必要な力は暗記による知識の詰め込みではなく、自ら考え、判断できる力であることを理解させ、クリティカル・シンキングを英語の授業に取り入れることは可能である。

授業実践では、学生に英語で考える学習の大切さを理解させるように心がけた。学生は考えることにより言葉に意識的になることができるようになった。英語で表現しようとする、自らの思考の曖昧さが浮き彫りになりやすい。学生が考えることを中心に据えた英語教育、すなわちクリティカル・シンキングを取り入れた教育により、学習活動を主体的に行う学生が増え、大学英語教育の指導法の改良にも結び付けることができたと考えている。

6. 今後の課題

第二言語としての英語教育 (Teaching English to Speakers of Other Languages, TESOL) の分野では、大学英語教育でのクリティカル・シンキング教育の必要性が主張されてきた。しかし、日本の学生は相互協動的自己観や自己卑下的自己呈示などの社会文化的文脈の影響を受けて、欧米にみられるクリティカル・シンキング力が身に付きにくいという事実がある。今後は、欧米文化の価値観に基づく相互独立的価値観ではなく、他者との協調を重視する日本の文化的特性と調和したクリティカル・シンキング教育の在り方を検討する必要がある。

付記

本稿は大妻女子大学戦略的個人研究費 (課題番号 S2905 「大学での英語教育におけるクリティカル・シンキング力を育成するための研究」の研究助成の一部をなすものである。なお本稿以外のこの助成による発表論文等は以下のとおりである。

①雑誌論文

[1] 服部孝彦, 「大学教育におけるクリティカル・シンキング力育成に関する研究」 *The JALIAS Journal*, No. 17, (査読有), 日本総合文化研究会, 2017, pp.31-41.

[2] Takahiko Hattori, Lawrence Karn, “Language and Visual Consciousness from the Enlightenment to Today” 『大妻女子大学紀要 - 社会情報系 - 社会情報学研究』, 第26号 (査読無), 大妻女子大学, 2017, pp.126-134

[3] Takahiko Hattori, Lawrence Karn, “The Creative Process, Memoir, and Redemption” *Journal of International Education Research, Volume 11, Number 1, First Quarter* (査読有), 2018, pp.23-38.

②学会発表

[1] Takahiko Hattori, “Building Skills for Academic English Essay Writing”, 日本人類言語学会第17回学術大会, 2017年5月21日, 近畿大学

[2] Takahiko Hattori, “Genre Approach in Academic Writing”, 日本言語文化学会第24回研究大会, 2017年7月1日, 大妻女子大学

[3] 服部孝彦, 「高大接続を視野に入れたアカデミック・イングリッシュ力の育成」, 日本学校教育学会第32回研究大会, 2017年8月5日, 上越教育大学

[4] Takahiko Hattori, “Teaching Academic English in the Context of National Directives”, The Clute Institute, 2017 International Las Vegas Academic Conference, 2017年10月9日, Monte Carlo Convention Center, Las Vegas, Nevada USA

[5] Takahiko Hattori, “Genre-based Approaches: Emphasizing the Social and Linguistic Dimensions of Written Texts” Hawaii International Conference on Education, 2017 International Conference, 2018年1月4日, Mid-Pacific Conference Center at Hilton Hawaiian Village, Waikiki, Hawaii USA

引用文献

[1] Atkinson, Dwight. (1997). “A Critical Approach to Critical Thinking in TESOL”, *TESOL Quarterly*, 31 (1), pp.71-94.

[2] Benesch, Sarah. (1993). “Critical Thinking: A Learning Process for Democracy”, *TESOL Quarterly*, 27 (3), pp. 545-547.

[3] Beyer, B. K. (1985). “Critical Thinking: What is It?” *Social Education*, 49, pp. 270-276.

[4] Brookfield, S. D. (2012). *Teaching for Critical Thinking: Tools and Techniques to Help Students Question Their Assumptions*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

[5] Ennis, Robert H. (1985). “A Logical Basis for Measuring Critical Thinking Skills”. *Educational*

Leadership, 43, pp. 44-48.

[6] Halpern, D. F. (1996). “Analogies as a Critical Thinking Skills”. In D. E. Berger, K. Pezdek & W. P. Banks (Eds.). *Applications of Cognitive Psychology: Problem Solving, Education, and Computing*. Lawrence Erlbaum Associate.

[7] 樋口直宏 (2014). 『批判的思考力指導の理論と実践：アメリカにおける思考技能指導の方法と日本の総合学習への適用』, 学文社.

[8] 久保田祐歌 (2010). 「どのような授業でクリティカル・シンキングを教えられるか」, 『名古屋高等教育研究』 10. pp. 253-268.

[9] 楠見孝 (2014). 「批判的思考力と大学教育」, 『IDEー現代の高等教育』 5月号, pp.23-27.

[10] 楠見孝、道田泰司 (編) (2015). 『批判的思考力：21世紀を生きぬくりテラシーの基盤』, 新曜社.

[11] 楠見孝、道田泰司 (編) (2016). 『批判的思考力と市民リテラシー：教育、メディア、社会を変える21世紀型スキル』, 誠信書房.

[12] Levy, D. A. (1997). *Tools for Critical Thinking: Metathoughts for Psychology*. Boston: Allyn & Bacon.

[13] McPeck, John, E. (1990). *Teaching Critical Thinking*. New York: Routledge.

[14] 道田泰司 (2001). 「批判的思考の概念：人はそれをなんだと考えているか?」, 『琉球大学教育学部紀要』 59. pp. 109-127.

[15] Smith, R. A. (1995). *Challenging Your Preconceptions: Thinking Critically about Psychology*. Pacific Grove, CA: Brooks/Cole.

[16] Siegel, Harvey. (1986). “Skills, Attitudes, and Education for Critical Thinking”. In F. H. van Eemeren, Grootendorst, Blair, and Charles (Eds). *Argumentation: Analysis and Practices*. Netherland: Foris Publication. pp. 358-365.

[17] Wade, C. E. (1997). “On Thinking Critically about Introductory Psychology”. In R. J. Sternberg (Ed.). *Teaching Introductory Psychology: Survival Tips from the Experts*. Washington, DC: American Psychology Association. pp. 151-162.

(受付日：2018年6月26日, 受理日：2018年10月9日)

服部 孝彦 (はっとり たかひこ)

現職：大妻女子大学英語教育研究所教授

米国ユニオン大学 (UIU) 大学院総合文化研究科博士後期課程修了。博士 (Ph.D. in English)。
専門は英語教育学，応用言語学。現在はコミュニケーション能力におけるディスコース能力の育成に関する研究を行っている。

主な著書：*EFL Reading in Japan: Theory, Policy, and Practice* (共著，Mediaisland)